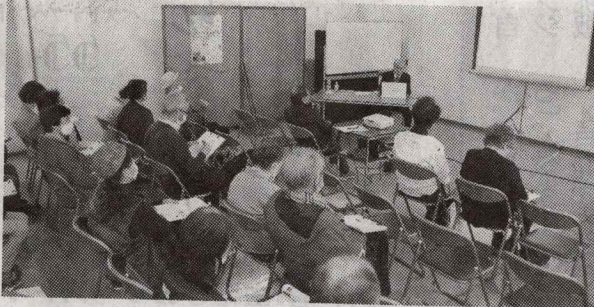


2024年（令和6年）5月1日（水曜日）

大河「光る君へ」を解説

おもしろ塾 元淳西小学校長の近藤さん

元淳西小学校長の近藤正実さんの講演「NHK大河『光る君へ』を楽しむ平安文学、時代考証を視点にゆかりの地を巡る」はこのほど、市中央公民館で行われ



大河ドラマ「光る君へ」に描かれる平安時代を「歴史散歩」

た。約40人が聴講し、平安時代に書かれた日記や、大河ドラマに折り込まれた史実や物語をたどりながら、源氏物語が生まれた時代や今後展開されるであろうストーリーに想像を巡らせた。

市民おもしろ塾の第146回例会として開催。著書「トオサン・カアサンが行く京都古典散歩」「枕草子」「源氏物語編く」がある近藤さんは、ドラマ「光る君へ」の脚本や時代考証を担当するキーパーソン、参考文献の紹介から始め、▽藤原道長と紫式部の恋は成り立つのか▽紫式部の一族に通底する願い▽道長の出世と兄弟の関わり▽紫式部と道長、どんな結婚生活か▽道長の正妻・源倫子と紫式部の関係——など、まだドラマでは描かれていない時

期も含め講演を進めた。

「源氏物語はなぜ生まれたのか」の章では、源氏物語誕生には枕草子が関わっているとの説を披露。「一条天皇は（亡くなった）皇后定子を忘れられなかったと思う。枕草子を読んで思い出に浸っただろう。でも、道長は何か（娘で中宮の）彰子に引き付けたい。そこで道長は、紫式部に源氏物語を書かせ、物語好きの一条天皇を引き寄せるという作戦を考えたい」と述べ、「枕草子対源氏物語の図式」を提示。

紫式部日記の記述から、源氏物語は「間違いなく道長の意図で、道長の後援で書かれたもの」で、加えて、漢籍の写本を作り中宮に献上、「道長は必死」だったと解説。その結果か、「彰子は立て続けに皇子を授かり、後一条天皇、後朱雀天皇になっっていく。結果、道長は外戚として権力の絶頂になる」などと説き、今後の大河ドラマの展開に「楽しみ」を含ませた。

近藤さんは紫式部と道長の住まいや逢瀬の場所、倫

子の家、散策を行っていた広場などの位置関係を地図で示したり、跡地を写真で紹介。参加者を「歴史散歩」へと誘った。